ボランティアガイド

2025

Volunteer Guide

多様な世界に出会い、人生の可能性を広げよう！

立教大学

ボランティアってなんだろう？

ボランティア（volunteer）は、「自由意志」を意味するラテン語の「voluntas」が語源と言われています。解釈はいろいろありますが、立教大学ボランティアセンターでは、ボランティアについて次のように考えています。

新座キャンパス あそびフェス

人と出会う

ボランティア活動の本質は「人」との出会いです。
活動の場やそのプロセスでつながる人たちから
私たちは多くを学び、多くの力を得ます。

全学共通科目「ボランティア論」

知を学ぶ

ボランティア活動は「個」を乗り越える知恵を求め、
共に生きようとする知識を生み出します。

子ども服マーケット in Sunshine City（1day ボランティア）

場に育つ

ボランティア活動の「場」には力があります。
困難から立ち上がろうとする力、生きる場を守ろうとする力、
豊かな人間性を求めて挑戦する力が生まれます。

立教チームでつなぐ被災地支援プロジェクト（令和6年能登半島地震）

仲間をつなぐ

ボランティア活動には人を「つなぐ」力があります。
一人の小さな力が動き出すとき、
そこに連なる人を動かす力を紡ぎます。

ボランティア活動がもつ４つの特性

自発性

自分の意志で動きはじめよう！

ボランティア活動は、強制されるものでも義務でもなく、自ら進んで行う活動です。自らの「やってみたい」から始まるからこそ、大きな力や自由な発想、自分の個性を発揮できます。無理して始めるのではなく、自分のタイミングで、できることから始めてみましょう。

社会性

自分の役割を探そう！

社会や組織の中では、誰にでも自分の役割があります。他者との関わりの中で自分の役割を見つけたとき、そこがあなたの「居場所」になります。焦らずゆっくり探しましょう。

無償性

大切なものとの出会い！

自分の行動に対する見返りを求めないことで、自分の想像を超えた世界や発見に出会うことがあります。社会や他者との関わりを通して金銭的な報酬よりもっと大切なものが見つかるはずです。

互恵性

「生かし、生かされる」関係へ！

はじめは、「誰かを助けたい」という気持ちでも、気が付けば、自分が教えられることの連続だった。そのような、お互いが「生かし、生かされる」関係を実感できる、それが「共に生きる」ことの原点です。

立教大学ボランティアセンター　ミッションステートメント

MISSION

立教大学はキリスト教に基づく建学の精神を具体化したものの一つとして、「共に生きる」ことを重視しています。立教大学ボランティアセンターは「共に生きる」を礎に、学生が他者との関わりや社会的な課題に取り組むことを通して、人間としての成長とよりよき社会の実現を目指す意志の育成を図ります。

立教大学ボランティアセンターはこのミッションの下、皆さんを支援します。

1 学生個々の支援
（相談業務、ボランティア･カフェの開催、個の支援）

一人ひとりの学生に寄り添い、ボランティア活動の理解を促進します。社会のニーズと学生のニーズをきめ細かくコーディネートし、多種多様な情報の中から適切な情報提供とアドバイスを行います。

2 多様なニーズに対応した体験機会の提供（1dayボランティア、週末ワークキャンプ）

急変する社会のニーズやグローバル化する世の中の動きに素早くかつ柔軟に対応し、さまざまな体験の機会を提供します。

3 学生ボランティアサークルの支援
（ボランティアオリエンテーション、登録団体制度）

立教大学でボランティア活動を行う学生サークルをつなげ、それぞれの特徴・伝統を生かしながら発展していけるよう支援します。

4 独自のプログラムや学びの場の提供
（キャンプ･授業）

学生が現場に足を運び、自分の目で確かめ、行動・実践しながら学んでいく、主体的な学びができるボランティアセンター独自のプログラムを実施します。また授業の実施などを通じて、社会の現場を知る機会を提供します。

5 立教大学他部局との協働
（学内の協力連携）

学内のさまざまな学生支援部局や立教サービスラーニング（RSL）センターとの協働・連携を推進し、多角的に学生をサポートします。

6 地域連携

立教大学周辺の地域（池袋・新座）の課題に向き合い、共に連携します。

ボランティアを探してみよう！

皆さんの希望や興味に合わせて、多くのボランティア情報の中から自分に合ったフィールドを探してみましょう。あなたの人生に良い影響を与えてくれる大切な出会いにつながることも少なくありません。

1 何をしようかな？

大まかなイメージを描いてみよう

ボランティア活動にも様々な種類があります。あなたが興味をもつテーマ、関心のある分野は何でしょうか。まずは自分自身に問いかけてみてください。
あなたに適したフィールドを見つける、はじめの一歩になります。

主なボランティア活動の分野

多種多様なフィールドがあります

［保健・医療］

［高齢者］

［しょうがい者］

［社会教育］

［まちづくり］

［農山漁村または中山間地域の振興］

［環境保全］

［文化・芸術］

［子ども］

［地域安全］（防災・減災）（防犯）

［情報（IT）］

［観光］

［消費者保護］

［スポーツ］

［科学技術］

［災害救援・復興支援］

［人権・平和］

［国際交流・国際協力］

［男女共同参画社会］

［その他］

ボランティア活動を探すときのポイントは？

自分なりに活動イメージを思い描いてみましょう

［ いつ？ ］
春休み、夏休み、秋休み、冬休み、週末…

［ どこで？ ］
大学周辺、自宅の近く、被災地、郊外、海外…

［ 活動ペースは？ ］
とりあえず1回、週に1回、1カ月に1~2回、行けるときに行く…

［ 対象は？ ］
子ども、しょうがいのある方、被災した方、教育機会の少ない方、高齢の方、外国籍の方…

［ 内容は？ ］
学習支援、交流支援、居場所づくり、スポーツ競技のサポート、文化交流、農業…

［ 費用は？ ］
交通費、参加費…

2 どうしたらいいんだろう？

ボランティアコーディネーターに相談してみよう！

池袋・新座のボランティアセンターには、専門職のボランティアコーディネーターがいます。「ボランティア活動をしてみたいけど、どんなことが自分にできるのか想像できない」「実際にどのように動けばいいのか分からない」「情報が多すぎてそれぞれの違いが分からない」など、様々な疑問や不安に寄り添いながら、みなさんが自分に合った活動先とつながることができるようにサポートします。ぜひ一度ボランティアセンターにお越しください。

コーディネーターの声

［ボランティアセンターは、“想いをカタチに変える場所”］

ボランティアコーディネーターは専門性を生かしながら、みなさんと一緒にその想いの実現を目指していきます。これから何かを始めたい、こんな活動に参加してみたい、参加した活動のことで悩んでいるなど、多様な相談にお応えしますので、まずはボラセンでお話ししましょう。お待ちしています！

ボランティアコーディネーター（池袋）
齋藤 元気さん

コーディネーターの声

［ 一歩踏み出して、 心豊かな経験を ］

学生の皆さんがボランティア活動を通じて、人と出会い、価値観に触れ、感じ、学び、心豊かな経験を重ねながら成長していく姿をみて、一人でも多くの方にそのような経験をしてほしいと日々感じています。何から始めたらよいか迷っている方も、ぜひ一歩踏み出してみませんか？ お気軽にボラセンへお越しください。

ボランティアコーディネーター（新座）
押山 聡子さん

3 さあ、やるぞ！

フィールドへ飛び出そう！

ボランティア活動には、プログラムへの参加やサークル加入をはじめ、多くの入口があります。
豊富な情報と幅広いネットワークを生かし、ボランティアセンターでは皆さんが活動する場を数多く提供しています。

ボランティア活動の心得

一人ひとりが、立教大学の代表者としての自覚を持って！

ボランティアの活動現場には、多くの人が関わっています。活動先のスタッフもボランティアも、責任の重さは変わりません。事前の準備、活動中の心構え、常識的なマナーなど、以下の６つの心得に注意して、積極的に活動に取り組んでください。

基本中の基本！

無断欠席・遅刻をしない!!
遅刻・欠席の時は必ず活動先に連絡をしてください。 ボランティア活動には責任が伴います。

一人で悩まず、相談する！
困ったことは、 活動先やボランティアセンターに相談してください。

相手の気持ちを考えて行動する！
思い込みで行動するのではなく、 相手の気持ちを考えて行動してください。

挨拶はすべての基本！
気持ち良い挨拶を心がけ、活動中は周りの状況を見て行動してください。

個人情報の扱いに注意！
活動で知り得た個人情報は、 本人の同意なしにSNS上に投稿してはいけません。 また、 個人の連絡先（SNS等のアカウントを含む）を伝えてはいけません。

活動前にはしっかり準備をする！
事前に情報を集め、 正しく理解し準備してください。 事前説明会・研修会には必ず参加してください。

（通称：ボラセン）

ボランティアセンターってどんなところ？

立教大学ボランティアセンターでは、学生のみなさんがボランティア活動を通して学び、成長し、新たな社会を創っていくことができるようにサポートしています。みなさんの意志や想いをカタチにできるようにアドバイスをしたり、実現に向けて一緒に取り組んだり、活動の場を用意したりしていますので、ぜひご活用ください！

池袋キャンパス５号館1階

新座キャンパス７号館2階

このミッションのもと、皆さんを支援しています!

立教大学ボランティアセンター　ミッション・ステートメント

立教大学はキリスト教に基づく建学の精神を具体化したものの一つとして、「共に生きる」ことを重視しています。立教大学ボランティアセンターは「共に生きる」を礎に、学生が他者との関わりや社会的な課題に取り組むことを通して、人間としての成長とよりよき社会の実現を目指す意志の育成を図ります。

ボランティアって、「おたがいさま」なもの。

立教大学は、キリスト教信仰に基を置く教育機関です。キリスト教の正典としての聖書の中に、イエス・キリストの「私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい（ヨハネ13:34）」との言葉があります。ここで、大切なことは「互いに」ということです。私が幼かった頃は、地域コミュニティが相互依存的に成り立っていました。子どもが熱を出した、親が怪我をした、誰かが亡くなった…すると地域の人たちが、「おたがいさま」そんな言葉を交わし合いながら助けてくれたモノでした。生活の直中にボランティアが息づいていたように思います。イエスが求めた「互いに」愛し合うことと「おたがいさま」という言葉の響きがどこまでも重なっていきます。愛は一人では完結しない、愛が人と人との間を行き来することがあってはじめて愛は愛になるのだと思うのです。愛とは「おたがいさま」なのです。そして、その愛（Charity）がボランティアの源泉であるのであれば、ボランティアも「おたがいさま」なものなのです。愛は、それを受け取る者を豊かにしながら、それを差し出す者をも豊かにしていきます。そんな「おたがいさま（InterDependence）」な関係の構築…それを感性においても実践においても体感できるところに、立教大学ボランティアセンターの真価はあります。

立教大学ボランティアセンター
センター長
中川 英樹さん
（立教学院副院長／大学チャプレン）

ボランティア活動をしたい・している学生のための多様なサポート

SUPPORT 1 ボランティアコーディネーターによるボランティア相談

専門職のボランティアコーディネーターが、一人ひとりの学生の想いに寄り添い、ボランティア活動の始め方から活動上の悩み・課題についての相談まで幅広くアドバイスしています。
社会ニーズの変化も捉えながら、ボランティアセンターに寄せられる多種多様なボランティア募集情報を紹介していますので、気軽にご相談ください。

SUPPORT 2 豊富なボランティア関連情報の配架

ボランティアセンター内のラックには、学内外からお寄せいただくボランティア募集情報や助成金・補助金情報、研修・イベント情報などのポスターを配架しています。自由にご覧いただき、関心のあるものがありましたらお持ち帰りください。

池袋キャンパス

新座キャンパス

SUPPORT 3 ミーティングスペースの貸し出し

池袋キャンパスではボランティアセンター内に、新座キャンパスではボランティアセンターと隣接した場所にミーティングスペースがあります。事前に予約すれば使用することができますので、ボランティア活動に取り組む学生サークルのみなさんはぜひご活用ください！

主に新入生向けに配布している冊子

SUPPORT 4 ボランティア活動に取り組む学生サークルの支援

ボランティアセンターに登録している学生サークルに対して、同じようにボランティア活動に取り組むサークル同士がつながり、互いに高め合えるように、情報共有や交流の機会を設けています。2022年度から「立教生ボランティア活動報告会」を開催し、多くの学生サークルが一年間の取り組みの成果や課題を学内外に発信してきました！
その他、ボランティアセンターの登録サークルにボランティア関連情報を共有するためのメーリングリストなども運用し、日常的に活動をサポートしています。団体立ち上げのサポートやボランティアセンターへの新規団体登録も受け付けていますので、ぜひご利用ください！

立教大学ボランティアセンターのあゆみ

ボランティアセンターは、立教大学建学の精神であるキリスト教に基づく教育を具現化するヒューマン・ムーブメントの一つとして、2003年に設立されました。
正式に「ボランティアセンター」として設立される前から「チャペルの諸活動を司るチャプレン室の活動の一環」として、その機能は存在していており、立教大学には長く実り豊かなボランティア活動の歴史と伝統があります。

設立のあゆみ

1926 立教大学におけるボランティア活動の始まりはポール・ラッシュ博士がBSA（聖徒アンデレ同胞会）という祈りと奉仕をモットーとしたグループの立ち上げに遡る

1993 チャペルの諸活動を司るチャプレン室の活動の一環としてボランティアセンターの機能を持つ組織が発足

2001 全カリ総合「ボランタリズムの可能性」開講

2003 **ボランティアセンター発足**
立教大学の押見輝男総長（当時）が「立教大学ヒューマン・ムーブメント」を唱えて、その中の一つとしてボランティアセンターが設立される

2004 八ヶ岳環境ボランティア登山（「清里環境ボランティアキャンプ」）として現在も継続）
災害ボランティア講座開始（現在に至る）

2008 ボランティアオリエンテーション開始
1989年から続く「農業体験in山形県高畠町」がボランティアセンター主催となる（現在に至る）
「バリアフリー映画上映会」開始

2011 東日本大震災復興支援本部事務局担当

2014 ボランティア功労者厚生労働大臣表彰受賞
全カリ総合「ボランティア・『耕す知』と『共生』の探求」開講

2015 一般財団法人日本財団学生ボランティアセンターとの協定書締結

2016 全学共通科目「ボランティア論」開講（現在に至る）

2020・2021 コロナ禍のため対面プログラム休止

2022 学生コーディネーター制度開始

2023 **ボランティアセンター設立20周年**
一貫連携教育・立教学院「清里環境ボランティアキャンプ」再開
「農業体験in山形県高畠町」再開

20周年記念

立教大学ボランティアセンターは、2023年の20周年を記念し、ゲストを招いた公開イベントを開催しました。

2023年5月31日
Fukushimaは世界でどのように報道されているか
※立教大学／大学広報誌 季刊『立教』266号Nov.2023より転載

3・11後の福島県の実情について取材を続けている、本学海外招聘研究員で、オーストリアのジャーナリスト、ユーディット・ブラントナー氏を招き、シンポジウムを開催。世界では「Fukushima」や「原発事故」の問題をどのように捉えているのか。同氏が撮影した「Fukushima」の映像やウィーン在住の日本人アーティスト「Hana USUI」のコラボレーションによるアートプロジェクトなどを上映しながら、福島の現状と復興支援に対する理解を深めました。

2023年6月9日
失敗する力 ～私たちにはどのような失敗が必要なのか～

行動することをためらって動けなくなっている若い世代の背中をそっと後押しするようなシンポジウムを開催。基調講演として、本学客員教授でジャーナリストの池上彰氏が登壇。同氏のさまざまな失敗談や、失敗を成功に結び付ける心の持ち方、思考の転換などについてお話しいただきました。また、学生とボランティアコーディネーターを交えたトークセッションを通して、これからの社会での生き方やボランティア活動が持つ可能性・価値について共有する機会となりました。

2023年12月9日
ボランティアセンター設立20周年記念礼拝

ボランティアセンターの開設20周年を記念して、これまで当センターに関わってくださった方々への感謝とこれからも共に歩んでいくことを祈念し、祈りをささげる記念礼拝を開催。池袋キャンパスの立教学院諸聖徒礼拝堂に集い、ボランティアセンター長の中川チャプレンにより厳かに進められました。建学の精神を具現化したものの一つ「共に生きる」を礎にした日頃の私たちの取組みについてお話しがあり、「立教の中で最も立教らしい部署」であることを改めて実感する機会となりました。

映画「ただいま、つなかん」上映&監督講演、アフタートーク

本学出身の映画監督 風間研一氏（2001年理学部卒業）による、気仙沼でのボランティア活動を支えてきた民宿「唐桑御殿つなかん」の女将と学生との交流を描いたドキュメンタリー映画『ただいま、つなかん』上映会を開催。上映後は、監督の講演、そして本学ボランティア団体に所属していた学生や陸前高田プログラムに参加した学生とのトークセッションを実施し、参加されたみなさまと共に、ボランティアについて考えを深める時間になりました。

年間スケジュール

4月
・ボランティアオリエンテーション

6月
・学生コーディネーター募集

8月
・学生コーディネーター研修合宿
・一貫連携教育・立教学院 清里環境ボランティアキャンプ

9月
・農業体験 in 山形県高畠町

10月
・ポール・ラッシュ博士記念奨学金募集

2月
・災害救援ボランティア講座
・学生コーディネーターふりかえり合宿

3月
・立教生ボランティア活動報告会

❶ボランティアオリエンテーション ❷清里環境ボランティアキャンプ ❸農業体験in山形県高畠町

その他、各種ボランティアプログラム、イベントを随時実施

●海外ボランティアフェア、海外ボランティア参加者報告会

●立教チームで活動する1day ボランティア
・東京都障害者スポーツ大会「水泳競技」「陸上競技」
・東京マラソン　・さいたまマラソン
・大江戸新座祭り　・子ども服マーケット in Sunshine City
・ALL としま× 立教　WAKUWAKU 防災フェス

●週末ワークキャンプ「伝統的な日本酒づくりを支える」

●新座キャンパス あそびフェス

●ボラカフェ
・ボランティアはじめませんか?　・ボランティアってどんな感じ?
・ボランティア団体に会ってみたい！　・初心者向け！ ボランティアの始め方
・あなたもできる団体設立　・平和のために私たちができること

●RSL センター&ボランティアセンターの協同企画
・写真展 & ワークショップ
「あなたにとって平和とは? - みんなで考える平和・人権 -」

●立教チームでつなぐ被災地支援プロジェクト
（令和6年能登半島地震）

❹WAKUWAKU 防災フェス ❺大江戸新座祭り ❻ボラカフェ

立教ボラセン主催の各種講座

SESSION 1 海外ボランティアフェア

海外ボランティア活動を運営している団体の方々を両キャンパスにお招きし、長期休み中に参加できるプログラム等についてご紹介いただきました。各団体にご準備いただいた資料は、現地の写真や映像が盛りだくさん。現地での活動内容やプログラムの魅力、語学力、費用等についてより具体的に知ることができました。
個別相談会では、過去の本学参加学生に経験談を伺い、質問に答えていただきました。

海外ボランティア参加者報告会　～立教生が参加した海外ボランティアの話を聞いてみよう～

夏休み期間に海外ボランティア活動に取り組んだ立教生による報告会を開催。日本では経験できないようなことやガイドブックには載っていないエピソード等、学生目線で実際の活動の様子が、写真とともに語られ、文字だけでは伝わらないような海外ボランティアの実情やその魅力を知る機会となりました。

この夏、「good!」の海外ワークキャンプに参加しました。
「そもそもなぜボランティアとして行くのか?」…それは、深いところまで関われるからです。現地の人や生活、文化はもちろん、一緒に行く仲間との関係もそう。楽しいこと・綺麗なところを見て触れるだけでなく、きついことまでを共有すること、現地の実情を肌で感じる環境に浸かれること、それらはとても特別なことでした。
では、「何故わざわざ海外か」…それは、不安への対処法を学べるから。ちょっとした不安をもごまかすことのできない環境でどうにかしようともがく経験は、日本で生活するうえでも活きる力になると思います。

参加団体：NPO 法人 good!
国：スリランカ　活動分野：道路・橋の建設
コミュニティ福祉学部
コミュニティ政策学科 2年 野戸 悠輝さん

僕は「128回フィリピンワークキャンプ」に参加しました。海外に行くのが初めてで、行く前は慣れない環境に適応できるかなど不安なことばかり。しかし、キャンプで仲間達と過ごした12日間は新たな発見がいっぱいであっという間でした。教科書などで見た事があるようなスラム街や歴史的建造物を実際に見ること、当事者からその話を聞くこと、そこで何を思ったかを仲間達と共有したこと。何にも代え難い時間であったと感じています。そして、自分は今まで世界の一部分しか知らずに生きていた事に改めて気付かされました。初めての海外での経験がこのキャンプで本当に良かったと心から感じます。なにより、冗談抜きで一生ものの友達ができました。

参加団体：認定NPO法人 CFF ジャパン
国：フィリピン　活動分野：子ども支援
理学部 化学科 3年 小幡 慧太さん

モンゴルでのボランティア活動は、一生の思い出になる素晴らしい経験となりました。現地の方々と力を合わせて行ったワークは、私にとって単なる作業ではありませんでした。それは、言葉の壁を越えて協力する喜びや大切さを実感する機会でした。
また、様々な背景をもつ人と関わり、多様な価値観に触れるたびに自分の世界が広がっていくのを感じました。日常から離れて壮大な自然の中で過ごす機会やそのような環境に身を置く時間は、普段得られないような貴重な学びで満ち溢れています。ここにしかない貴重なものを今の場所から一歩踏み出して、ぜひ体験してみてください。

参加団体：NPO 法人 good!
国：モンゴル　活動分野：公園の設備修復・塗装
社会学部 社会学科 3年 大前 晴菜さん

今回私は、「JHP・学校をつくる会」が主催する「カンボジア国際ボランティア」に参加させて頂きました。ブランコを作ったり、現地の子どもたちと交流したりと、初めてのことばかりでしたが、とても刺激的で楽しい8日間でした。現地に実際に行ってみないと分からないことが沢山あり、改めて体験をする事の素晴らしさを実感しました。
また、尊敬する大好きなメンバーに恵まれ、みんなから本当に多くのことを学びました。自分を変える大きなきっかけとなったこのボランティアの経験は、私の一生の財産です。行って後悔はありません。迷っている方はぜひ、勇気を出して参加してみてほしいです。

参加団体：認定NPO法人 JHP・学校をつくる会
国：カンボジア　活動分野：学校の遊具建設
観光学部 交流文化学科 2年 京光 彩夏さん

SESSION 2 ボランティアセンター主催の授業
ボランティア論 ～転換期を迎えた社会で求められること～
（全学共通科目 コラボレーション科目）

毎回、多様な分野で活躍する講師から、ボランティア最前線の話を聞くことができます。ステレオタイプなボランティアだけでなく、スポーツボランティア、企業のCSR活動など、ボランティア活動が多岐にわたっていることを実感し、ボランティアの「多様性」について理解します。
社会問題を自分の頭で考え、自分と社会との接点を意識する機会となり、毎年、この授業をきっかけにボランティア活動を始めて新しい世界を広げる学生もたくさんいます。

教員の声

皆さんは、「ボランティア」に興味や関心がありますか？そして、ボランティア活動とは何をどうすることなのか？と考えたことがありますか。ボランティアセンターが企画運営する全カリ科目『ボランティア論』では、毎回さまざまな現場でボランティア活動を展開しているゲスト・スピーカーから「私が実践しているボランティア活動」についてお話を伺うことができます。おそらく、「無償で人のため尽くす活動」と言った従来のボランティア観がきっと揺さぶられる学びができると思います。今は何となくでもボランティア活動が気になる学生の皆さんの積極的な参加をお待ちしています。

コミュニティ福祉学部
特別専任教授／
ボランティアセンター
副センター長
結城 俊哉先生

SESSION 3 災害救援ボランティア講座

2003年のボランティアセンター設立時から、防災・減災や災害時対策の普及・啓発を行っている「災害救援ボランティア推進委員会」と共同で、災害救援ボランティアの基礎的な知識とスキルを習得できる「災害救援ボランティア講座」を開催しています！
災害ボランティアについてだけでなく、日常の場面で想定される応急手当なども学ぶことができ、修了者には、災害救援ボランティア推進委員会より「セーフティリーダー認定証」が、東京消防庁より「上級救命技能認定証」がそれぞれ授与されます。多くの立教生・教職員が講座を修了し、各地で活躍しています。
本学に限らず様々な場所で開催されている講座ですが、立教大学で開催する際には、本学学生・教職員に対して先着25名までは大学から受講料を補助していますので、“無料”で受講することができます。
人気の講座なので、お申し込みはお早めに！

● 主な内容
応急手当活動（上級救命技能講習）、災害ボランティアの基本、出火防止と初期消火、災害想像力を養う3：3：3ワークショップ、災害対策の基本、災害模擬体験と実技、大学・学生・地域による復興支援と防災活動の紹介、災害ボランティア活動の安全衛生と図上演習等。
その他にもボランティアセンターでは、様々な講座の開催、一部検定の受講料補助をしていますので、関心のある方はボランティアセンターでご相談ください！

立教ボラセン独自のプログラム Part 1

有機農業の里として有名な山形県高畠町において上和田有機米生産組合との交流を図りながら、農・食・環境を考える農業体験 in 山形県高畠町など、学生ボランティア活動の可能性を広げる、新たなフィールドの開拓・実践にも取り組んでいます。

PROGRAM 1 農業体験 in 山形県高畠町

多量の農薬散布で農作物を作ることが常識だった40年近く前、いち早くその害に気付き、有機栽培農法で稲作を始めたのが上和田有機米生産組合です。立教大学とは本プログラムで約30年にわたるお付き合いになります。多くの学生を育ててくれた高畠の人々を通して、「土にふれ、食を見直し、共に生きる」ということにまで思いを馳せる5日間です。日常を離れ、高畠の豊かな自然や人としての本質的な生き方を実践している人たちとの出会いは、自身や既存の価値観を見つめ直し、今後の生き方を考えるきっかけとなるでしょう。

稲の間に生えている稗抜き作業中

参加者の声

目的をもって、いつもと違う日々を過ごす

農業体験in 山形県高畠町参加

農業や食に関心があったことから、 農業体験に参加しました。 現地で過ごす期間だけでなく、 事前学習や事後学習などもあり、 新鮮で有意義な時間を過ごせました。 そして何より、新しい出会いが多くありました。 援農先の農家さんやそのご家族、 一緒に参加した学生、 同行して下さったスタッフの方々など、 今まで同じコミュニティにしかいなかった私にとって出会ったことのない素敵な人とたくさん出会えました。
また、 農業体験に参加したことが授業の履修やゼミ選択、 将来について考えるきっかけにもなりました。 この経験を一年生のうちからできたことは、 私の強みになっています。 いつもと違う日々を目的をもって過ごせることも魅力の一つです。 新しい場所や知らない環境に飛びこむことは不安も多いと思いますが、 少しでも興味をもったことを大切にし、 勇気をもって飛び込んでみてください。 その選択肢の一つにこの農業体験をお勧めします。

文学部 史学科 2年
高橋 舞さん

特色ある立教の各種キャンプ

学習においては、座学によって理論や知識を習得する「キャンパス・エデュケーション」と実際の現場から学ぶ「フィールド・エデュケーション」、双方の連動が重要です。正課外教育プログラムの中核をなしてきた各種のキャンプやフィールドワークでは、学生が現場へ出向き、他者との関係性を通じてアイデンティティや自立を獲得し、「共生」や「協働」といった考え方や態度を身に付けるようなプログラムを用意しています。農業体験や奥中山ワークキャンプ、林業体験など、立教ならではのプログラムを通じ、あなた自身のキャリア形成につなげていきましょう。

PROGRAM 2 一貫連携教育 立教学院清里環境ボランティアキャンプ

緑豊かな八ヶ岳山麓の清里高原を拠点に、立教学院各校の小・中・高校生、大学生たちが共に取り組む自然保護活動です。一貫連携教育の中で各学校の構成員が集まる唯一のプログラムとして2004年から歴史を刻んでいます。大学生には、単に参加するだけでなく、自然環境保護の専門家（レンジャー）と共にプログラムを創り、実施する楽しみもあります。年代の異なる仲間とも協働していく楽しみ、自然の偉大さにふれながら自分もその自然を保護するという使命感などがあなたの活動を支えます。「他者」と関わることで、「自分」とも向き合える貴重な機会です。

清里の森の中で自然歩道の修復中

参加者の声

手を取り合い、思いを一つに

清里環境ボランティアキャンプ参加

私は清里で過ごした三日間を通して、 仲間と一緒なら成せることがたくさんあると学びました。
本プログラムに参加したのは、 小・中・高・大学生・教職員が連携して自然保護活動に取り組むことで、 協働する力・共生を大切にする力を養いたかったからです。「参加者全員が清里の自然を守る」「自他共に尊重する」という目標をもち、 レンジャーの方々に熱くご指導いただきながら、 自分にできることを一生懸命に取り組みました。
学年が違えば価値観も変わりますが、 活動中は相手を尊重し、 手を取り合って思いを一つにすることで、 一人ひとりの良さや個性を発揮することができたり、 信じることの素晴らしさを体感したりすることができました。 無事に活動を終えた後の自信と誇りに溢れた皆の顔は一生忘れられません。
立教と深い縁がある清里の地で、 仲間と一緒に何か挑戦してみたい人、可能性を広げてみたい人はぜひ参加してみてください！

観光学部 観光学科 3年
二見 直輝さん

立教ボラセン独自のプログラム Part 2

PROGRAM 3 ボランティア初心者大歓迎！ 立教チームで活動する1day ボランティア

立教チームで活動する1dayボランティアは、「ボランティアに関心はあるけど、一人で始めるのは不安」「継続できるか心配」「短期でも、社会課題の解消にガッツリ関わりたい！」という学生に対して、１日から参加できるボランティア活動の機会を提供するプログラムです。 活動には、ボランティアコーディネーター（職員）も同行しますので、活動中に生じた問題や不安についてもその場でサポートいたします。 また、活動ごとに参加者を募集し、毎回新たにチームをつくるため、学年関係なく、どのタイミングからでも参加することができます。2024年度は、全部で8つのプログラム（計12日）の活動を実施。多くの立教生が「はじめの一歩」を踏み出し、ボランティア活動デビューを果たしました。

❶さいたまマラソン

❷東京マラソン

❸ALL としま× 立教 WAKUWAKU 防災フェス

［ 東京都障害者スポーツ大会 ］

「東京都障害者スポーツ大会」は、全国障害者スポーツ大会の派遣選手選考会を兼ねている都内最大規模の障害者スポーツ大会です。立教チームは、「水泳競技（知的･身体）」「陸上競技（知的、身体･精神）」の活動にボランティアとして参加し、大会運営をサポートしました。

水泳競技：5/18（土）

東京アクアティクスセンターで開催された「水泳競技（知的・身体）」では、主に「誘導員」「速報・用紙運搬員」「表彰」の役割を担当。大会や競技が安全かつ円滑に運営されるように、サポートしました。

ボラセン公式 note はこちら

陸上競技：5/25（土）、26（日）、6/1（土）

駒沢オリンピック公園総合運動公園 陸上競技場及び補助競技場で開催された「陸上競技（知的）（身体・精神）」では、主に、「開閉会式の旗手」「ハガー」「表彰」「選手の招集・誘導」などの役割を担当しました。

ボラセン公式 note はこちら

参加者の声

健常者と障がい者の差異の小ささを感じた。
私には普段、障がい者の方とあまり関わる機会がない。今回の大会ボランティアに参加して、楽しんで参加している選手の姿や、選手同士で応援しあっている姿を見て、健常者となんら変わりはないのだと気づいた。
そもそも、健常者と障がい者を別と捉えること自体がおかしいとは思うが、今までは無意識にそういった考えを持っていた。特別な声かけや配慮が必要だという意識が強かったのだ。
しかし、今回のボランティアを通して、たしかに配慮は必要だけれども特別な扱いは要らないのだと気づいた。隔たりを作るのは意識の問題だと感じたので、今後は無意識の分類をなくして関わっていきたい。
（異文化コミュニケーション学部 異文化コミュニケーション学科 1年）

今回は知的障がい者の方々の大会ボランティアだったが、選手それぞれが走り終わった後に素直に喜びを表現していた選手が多く、とても感動した。日常では障がい者が自分から行動しているところをあまり見ないため、彼らがどのような生活をしているかわからなかった。
しかし、今回の活動を通して、障がい者の方々が活躍しているのを見て、もっと世の中にもそのような場を作れたらいいなと言う考えが浮かんだ。ボランティア自体について学べることも多かったが、それ以上に今回は障がい者の生き方について学ぶことが多かったと思う。
（観光学部 交流文化学科 1年）

誰もが笑顔で本当にうれしそうにしていて、スポーツの楽しさや喜びは障がいあるなしに関係ないと改めて感じた。
（文学部 文学科 フランス文学専修 3年）

※学年は当時のもの

［ 大江戸新座祭り ］

9月15日（日）に、ふるさと新座館（新座市 野火止）などで開催された『第9回 大江戸新座祭り』において、立教チームの学生ボランティアが37名参加し、その運営をサポートしました。
当日は35度近い気温の中、会場内の各所（ステージ、屋台村など）が多くの市民で大賑わい。夕方から開催された阿波踊りでは、「連」と呼ばれるグループが、交通規制が行われた公道を踊り歩き、沿道に集まった大勢の市民から拍手や声援が送られました。
立教生はボランティアとして、「“射的の屋台”“子どものための抽選会”“本部”の運営」、「会場アナウンス」「阿波踊りの進行サポート」などを担当。地域の方々と協働しながら、一年に一度のお祭りを盛り上げました。

ボラセン公式note はこちら

参加者の声

決して地域の人とボランティア側の人を分け隔てるのではなく、一緒に協力して作り上げていくことが大切なんだと感じました。ボランティアとは、与えられた作業を淡々とこなしていくのではなく、イレギュラーなことにも対応しながら、その地域について少しでも知っていくことができるものだと感じました。
（社会学部 現代文化学科 1年）

大江戸新座祭りには、想像以上に多くの人の想いと努力のうえで成り立っているものだと強く感じました。ボランティア活動をしたことで、直接市民の方々と接することができたのは非常に良い経験だったと思います。市民の方々が大切にしているこの祭りはこの先もずっと継承していかなければならないと思います。
（コミュニティ福祉学部 コミュニティ政策学科 2年）

特に最後の阿波踊りで、全員の活気に満ち溢れていてお祭りという行事そのものの力強さを感じた。老若男女、本当に沢山の人がいて、楽しむ人達を見ていると、お祭りが必須な行事ではないものの、地域の豊かさの為にあるべきものだと思った。また、最後のボランティアの方々が感じた大変さ、難しさを聞き、試行錯誤の最中であり、関わる人がより心地好く参加できるように、やり方をどんどんアップデートさせていくことの重要性も感じた。
（現代心理学部 心理学科 3年）

※学年は当時のもの

［ 子ども服マーケット in Sunshine City ］

6月29日（土）･30日（日）、12月7日（土）･8日（日）に開催された「子ども服マーケット in Sunshine City」の運営に、立教チームのボランティアが参画。子どもを連れた保護者が、子ども服等を選ぶ時間的な余裕を生み出すこと･その楽しさを味わえるようにすることを目指し、子どもを安心して預けられる「遊びコーナー」の企画･運営を行いました！

参加者の声

今回のボランティアで、たくさんの子どもたちや親御さんの姿を見て、自分にとって「出かける街」だった池袋が、誰かにとっては「帰る場所」なのだということをはじめて実感できました。池袋という街を、子どもたちにとってもっと安心できる場所にするために行動していきたいと感じました。（文学部 文学科 英米文学専修 2年）

とにかく子どもたちが楽しめることを第一に準備し本番を迎えたので、実際に子どもたちから「楽しい」「もう一回やりたい」といった声を聞けたことが嬉しかったです。安全面やゲーム性などの面からルールをきちんと設定することも必要ですが、子どもたちの意向や周りの状況にあわせてルールをあえて崩すというのも、より楽しんでもらうためには大切なことなのだと学びました。
（社会学部 現代文化学科 2年）

活動の詳細は、ボラセン公式noteで記事を公開中！

※学年は当時のもの

立教ボラセン独自のプログラム Part 3

PROGRAM 4 週末ワークキャンプ「伝統的な日本酒づくりを支える」

「権田酒造株式会社」との出会いから、伝統的な手法での日本酒づくりを支えるボランティアプログラムを2024年度に新設しました。
昨今の酒造りにおいては、機械化による大量生産が進んでおりますが、その手法の在り方自体が社会課題となっている側面もあります。このワークキャンプでは、1泊2日の活動の中で、日本酒造りの現場に触れ、その伝統的な造りを支えることを目的としており、環境との共生、地域密着を通した地産地消・経済循環、そして伝統的な手法の継承などを考えながら、その実践に携わります。
当日は、日本酒の仕込み作業として、酒米の計量や蒸米の運搬、道具の洗浄、酒粕の梱包（商品加工）などを行いました。

日本酒の仕込み作業の様子

活動先 **権田酒造株式会社**（埼玉県熊谷市）

江戸末期の嘉永年間（1850年）に創業。 以来、 埼玉県熊谷の地で約170年酒造業を営んでいます。 立教大学卒業生（加えて、 元立教学院職員）がご家族で経営する酒蔵でもあります。
かつては越後杜氏が担っていた酒造りですが、 平成10年からは地元の社員で行っており、 昔ながらの手造りで、 全てのもろみを槽掛けで搾っています。 代表銘柄の「直実（なおざね）」は、「令和5酒造年度全国新酒鑑評会」で金賞を受賞しました。

参加者の声

“体験者”ではなく“ボランティア”
週末ワークキャンプ「伝統的な日本酒づくりを支える」参加

昔ながらの手法を護る権田酒造さんでの活動は、 どれも貴重な経験でした。 普段であれば立入禁止のエリアにも入らせていただき、 多くの学びを得ることができたと思います。 しかし、 私たちは”体験者”ではなく”ボランティア”です。 当初の行程に固執せず、 チーム全体で考えながら柔軟に動くことを心掛けました。
1泊2日という短い滞在ではありましたが、 夕食後には日本酒を交わしながら権田家の方々とお話しする機会もありました。 当初は、 自分たちがどのように貢献できるのか苦悩していましたが、「君たちのおかげで、 普段なら作業に追われている時間を他に充てることができた」という言葉をいただき、この活動の意義とやりがいを実感できました。
帰る頃には、 まるで第二の故郷のような愛着が生まれていました。 ボランティアとして関わることでこそ得られる深い交流が、 そこにはあったのだと確信しています。

現代心理学部 心理学科 4年
澤田 悠輝さん

学生サークルとの連携企画

[新座キャンパス あそびフェス]

＼新座キャンパスを“自分”の遊び場にしよう！／

新座キャンパス周辺にお住まいの子どもたちやそのご家族を対象として、「新座キャンパス あそびフェス」を初めて開催！
当日は、芝生の広場や屋外のグラウンドを遊び場として開放。『キャンパスを、“自分”の遊び場にしよう！』を合言葉に、約100人の参加者とボランティア学生が、楽しく体を動かしながら交流しました。
第１部では、日頃から子どもに関わっているボランティアサークルと協働し、各サークルが準備した遊び企画を実施しました。第２部では、参加者が自由に、創造的に、自発的に遊びを展開していけるようなプレーパークの場を運営。立教生は、子どもたちの創造性を引き出しながら一緒に遊んで場を盛りあげました。

第１部：学生サークル３団体による遊び企画の実施

❶ キャンパス DE キャンパス（おちばアート）［企画：立教大学ふくふく］
❷ 空からとばせ！紙コップひこうき［企画：SEMBRAR］
❸ あつまれあそびの森ミニゲーム（わなげ、しっぽ鬼、ひっくり返し競争ゲーム）［企画：子どもクラブ Bambino］

子どもだけでなく、保護者の方々にも遊びに加わっていただきました。真剣に競って悔しがったり、喜んだりしていて、参加されたご家族がみんなで楽しんでいる様子が印象的でした。

第２部：プレーパーク

❹ 自由に遊ぶプレーパーク［会場：１号館前広場・多目的グラウンド］
❺ おち葉のプール［会場：１号館前広場、 企画：子どもクラブ Bambino］
❻ キャンパスのフシギな植物たち（キャンパス自然ツアー）［会場：チャペル周辺、 ガイド：奇二 正彦先生（スポーツウエルネス学部）］

各所には、遊びに使えそうな道具を設置。ボールや「カプラ」などを使って遊ぶ方、鬼ごっこなど道具を使わないで遊ぶ方、様々な遊びの様子を見ることができました。子どもたちからは、「すごく楽しかった、また来たい！」などの感想が共有されました。

活動の詳細は、ボラセン公式noteで記事を公開中！

学生の声

新座キャンパス近くに30年近く住んでいるという方とお話しした際、「昔は息子たちが立教大学内で遊ぶこともあったが、 今はだいぶ遠い存在になってしまった」と残念がっていた。今回の企画は地域の方にとって大学が再び身近な存在になる一つのきっかけになったと思います。
（コミュニティ福祉学部 福祉学科 4年）

今回、 初めて自分たちで一から企画したり、 遊びを考えたりなど、 ここまで深く準備から携わってみて、 今までに感じたことの無い大変さと充実感、達成感を味わうことが出来ました。 すごくいい経験になったので、 これをサークルに持ち帰って、 次の経験に活かしたいです。
（コミュニティ福祉学部 福祉学科 1年）

大学という広い場所で普段できないような大胆なあそびをすることは、 子どもたちにとってワクワクすることだということが分かりました。 普段なら、 絵の具で服を汚したり、 葉っぱまみれになったりすることは怒られちゃうし、 やれないことだけど、 あそびフェスでは何をしても良かったので、 子どもたちのやりたいという気持ちを尊重できたのではないかと思いました。 また、 親御さんも、 子どもたちに誘われてあそびに参加して楽しめていたり、 親御さん同士でお話していたりして良かったです。（現代心理学部 映像身体学科 2年）

※学年は当時のもの

学生の立場から、学生と地域をつなぐ

学生コーディネーターの活動

［ 学生コーディネーターって何？ ］

学生の立場からボランティアコーディネーションを実践するプロジェクトです。 ボランティア活動の魅力を伝えたり、 ボランティア活動に参加するためのきっかけをつくったりするなど、 ボラセンのスタッフとともに、 ボランティア活動の機運を高める活動に取り組みます。
現在は、 2022年度に任命された第1期、 2023年度に任命された第2期、 2024年度に任命された第3期の学生コーディネーターが活動しています。 今年度の活動は、 活動の指針となるMISSIONを整理するところから始まり、 それを踏まえて様々な取り組みを創出しました！

学生コーディネーターMISSION2024

私たち学生コーディネーターは、 自分たちが感じるボラセンの課題を共有したうえで、 活動の方向性を明確にするために『学生コーディネーターMISSION2024』 をまとめました。

❶ ボランティアの魅力の再発見・発信

「ボランティア」という言葉の硬さ･分かりにくさ･特別感などが学生の中にあり、活動に参加するうえでのハードルが高くなっているため、一部の価値観に偏ることがないように、学生コーディネーター自身が「ボランティア」に対する考えを深めたり、その魅力を再発見したりしながら、それらを多くの学生に伝えていく。

❷ ボランティアセンターの活動の見える化

現状としてボランティアセンターの中身（取り組みや人、情報など）が見えにくい状況にあり、学生がアクセスしにくいということが大きな課題となっているため、ボランティアセンターの活動やそこに関わる人などを広く知ってもらうことで、安心してボランティアセンターに来室できるようにしていく。

❸ 人と人とをつなげるきっかけをつくる

ボランティア活動への一歩を踏み出しやすいような環境づくりに取り組むことで、学生が学内外に限らずコミュニティを広げ、多様な人とつながっていけるようなきっかけをつくっていく。

COORDINATION 1 学生コーディネーター研修合宿＆任命式

活動の詳細は、
ボラセン公式noteで記事を公開中！

昨年度から継続して活動する第１期･第２期の学生に加え、夏の研修合宿から新たに第３期学生コーディネーターが合流。この合宿は、「ボランティアセンターのミッションや取り組みについての理解を深めること」「ボランティア活動やボランティアコーディネーションについての基本的な考え方を理解したうえで、学生コーディネーターとして取り組みたいこと･取り組むべきことを具体的にイメージし、メンバー内で共有すること」「チームとしての連帯感を高めること」を目的に実施しています。当日は、グループワークやロールプレイなどを取り入れながら、楽しく学びを深めていきました。
その後、立教学院諸聖徒礼拝堂（チャペル）にて、「学生コーディネーター任命式」を実施。ボランティアセンター長である中川英樹チャプレンから、メンバー一人ひとりに任命証が手渡されました。

第2期 学生コーディネーター

［ 多様な気づきが共有され、互いを刺激し合う機会に ］

新たに加入する３期生にとって初めての活動となる研修合宿。私は２期生として、ボランティアについての知識を楽しく学んだり、皆の仲が深まったりするような企画づくりに励みました！
お互いを知るために企画した、匿名で回収したお題の答えに対して回答者が誰かを当てるゲームでは、推理合戦が白熱。緊張気味だった３期生がだんだんと他の学生コーディネーター・ボラセンスタッフと打ち解けていったことが印象に残っています。合宿中に３回実施した「オープントーク」では、「えんたくん」というコミュニケーションツールを使って、様々な考えを書き込みながら対話を進めました。「ボランティアに活かせる学部の学び」をテーマにした回では、それぞれの所属学部・学科の特性に関連した視点やボランティア活動に対する多様な気づきが共有され、互いを刺激し合う機会になりました。

コミュニティ福祉学部
コミュニティ政策学科 3年
鈴木 紅后さん

第3期 学生コーディネーター／ボラカフェの企画者

［ 自分の経験が誰かの参加の一歩に ］

下段のボラカフェは、「子ども服マーケット in Sunshine City」の活動に参加した私自身の経験を活かして企画しました。 当日は、共に活動したメンバーをゲストに招いて、 参加動機や活動を通して感じたことを聞いたり、 写真等を使って活動内容を詳しく伝えたりしました。 質問がたくさん出て場が盛り上がったこともそうですが、その時の参加者がその後に行われた12月の「子ども服マーケット」 の活動に参加してくれたことが何より嬉しかったです。
今回、 活動参加からボラカフェの企画・運営までを経験し、 改めて「ボランティア活動をしただけで終わりにするのは勿体ない」と思いました。 その経験を誰かと共有することで、 改めて活動の魅力に気づいたり、 今回のように誰かの次のボランティア活動参加を後押しできたりすることができます。 今回の学びを活かしながら、 これからも立教生とボランティア活動を繋げられるように活動していきたいです！

社会学部 現代文化学科 3年
真下 綾乃さん

COORDINATION 2 ボラカフェの企画・実施

活動の詳細は、
ボラセン公式noteで記事を公開中！

「ボラカフェ」 は、 カフェのようなゆったりとした雰囲気の中で、 ボランティア活動に関する様々な話が聞けるイベントです。実際にボランティア活動に参加した立教生との交流を通して、「ボランティア活動を身近に感じてもらいたい！」「ボランティア参加へのハードルを下げたい！」 そんな思いから企画・実施しています。
10月29日（火） には、 ボラカフェ 「ボランティアはじめませんか?」 を池袋キャンパスのボランティアセンターで開催。６月に行われた、 立教チームで活動する1dayボランティア 「子ども服マーケットin Sunshine City」 の参加学生をゲストにお招きし、 それぞれの参加動機や活動における役割などを深堀ってお聞きしました。 参加者からの質問も交えながら進め、ゲストからは、 活動において印象的だったことやこの活動の魅力について語られました。
翌日から、 同活動の秋冬版のボランティア募集が開始されましたが、 ここに参加した複数の学生から申込みが…！ 「はじめの一歩」 の後押しができました。

立教チームとして、支援活動のバトンをつないでいく

立教チームでつなぐ被災地支援プロ ジェクト(令和６年能登半島地震)

立教チームでつなぐ
被災地支援プロジェクト
令和６年 能登半島地震

[プロジェクトの概要]

ボランティアセンターでは、 2024年1月1日に発生した「令和６年能登半島地震」に対する支援活動として、「立教チームでつなぐ被災地支援プロジェクト（令和６年能登半島地震）」を立ち上げました。 卒業生とのつながりから、 活動拠点を石川県七尾市和倉温泉地域に設定。 2024年度は３回の現地活動（第１弾：7/ 1～3、 第２弾：8/ 16～21、 第３弾：2/17～20）を実施し、 計30名の学生が参加しました。

プロジェクトの MISSION（使命）

「令和６年能登半島地震」における災害被災地の復旧・復興に、立教チームとして貢献すること。

立教チームとして目指すこと＝VISION

和倉に対して：和倉温泉の再活性化に向けて、「観光の盛り上がり」と「地域の再生」を実現するため、若者である自分たちが住民と住民の間に入り、人と人をつなぐ架け橋になる。

地域に暮らす社会全体に対して：私たちが和倉温泉で見聞きしたことを、自分たちの発信を通して社会（日本・世界）全体に広げ、一人ひとりの当事者意識を引き出して、それぞれの防災意識を向上させたり、新たに現地に関わろうとするボランティアを巻き込んだりする。

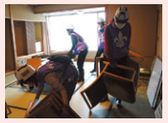
ビジョン達成に向けた「活動の軸」

- 活動の軸①：被災“地”の支援を通して、被災者を支援すること。
- 活動の軸②：現地の声に寄り添い、現地の方々と共に復旧・復興に取り組んでいくこと。
- 活動の軸③：立教チームとして、活動者が次の活動者へバトンを引き継ぐことで、継続的な支援を実現すること。

第1弾 2024.7.1（月）～3（水）［2泊3日］

テーマ「プロジェクトのゴールを探る」

第１弾では、今後の展開を見据えて「現地が求めていること（学生ボランティアにできること・学生ボランティアだからできること）は何か」「本プロジェクトのゴールとは何か」を探ることを意識し、活動を行った。



ボラセン
公式note

■主な活動・ボランティア受け入れ先

（1日目）
・「和倉温泉観光協会・和倉温泉旅館協同組合」（被害状況のヒアリング）
・旅館「加賀屋姉妹館 あえの風」（事前オリエンテーション）
（2日目）
・旅館「加賀屋姉妹館 あえの風」（客室備品の運び出し作業）

学生の声

第１弾として、まずは立教大学の活動を知ってもらうことができたと思う。 でも、まだお客様であり、 本音を話してもらえる関係性ではなかったように感じた。 これから通い続けることで、 ただの一回きりではなく、 本気で向き合いに来ているということを感じてもらい、 おこがましいかもしれないが、 和倉温泉の方々と共に和倉温泉の復興を進めていけたらいいなと思う。（社会学部 社会学科 3年）

活動を通して感じた“ボランティアニーズ”

地震による被害は多様であるが、 どうしても「半壊」や「全壊」などの評価で優先度の順位付けをされてしまう部分がある。 実際に、 行政や法律による評価をもとにした支援から漏れてしまう人や地域が生まれているが、 そこに寄り添えるのがボランティアなのではないか。
今回の活動を通して 「現地の方々の本音を聴くことの難しさ」も知った。 しかし、 自分たちが現地の住民ではない「よそ者」だからこそ話しやすい内容や場面も存在するのではないか。
今後の活動においては、 このような「よそ者」という立場を活かして、 現地の方々との信頼関係を築くことが重要だと感じた。

参加者の声

[共に創り上げた“私たち”のVISION]

第２弾 参加

「何かのボランティアに挑戦してみようかな」 きっかけは単純で、 何となくの応募からはじまりました。 現地についてからは、 お寺の中庭整備や備品移動。 第２弾で予定されていた５日間、 プログラム通りに作業をするものだと思っていました。 しかし活動の中で、「復興支援」という大きすぎてとらえようのない目標に、 自分たちの無力さを感じることがありました。 もっと明確で、 意識しやすい「私たちだけ」の目標がほしい。 そう思い、 勇気を出してメンバーに相談すると、 みんな賛同してくれました。 現地で第２弾の仲間と一緒に創り上げた“私たち”の目標が、 立教チームの「VISION」として位置づけられています。
この活動を通じて、 私の大学生活は180度変わりました。 想いを馳せる人が、 和倉にいること。 人生の宝物ができました。 私らしい、 私にしかできないボランティアの在り方を、 みつけられたような気がしています。 一度、 自分が持っている「ボランティア像」を手放して、 挑戦してみてほしいです。

文学部 史学科 4年
宇野 美咲さん

第2弾 2024.8.16（金）～21（水）［5泊6日］

テーマ「引き出す、受け止める、記録する、広げる」

第２弾では、「現地の方々の声から復興支援としてのボランティアニーズを掘り起こすこと」、「受け入れ先が大幅に減少する中で、本当にボランティアが求められていないのか（＝プロジェクトを終えていいのか）を見極めること」を意識しながら、現地で活動しました。

■主な活動・ボランティア受け入れ先

（2日目）
・「曹洞宗 青林寺」（中庭や山道の整備、本堂の清掃など）
（3日目）
・「真宗大谷派 信行寺」（本堂の清掃、敷地内外の草刈り・整備など）
（4日目）
・旅館「多田屋」
（館内の清掃・備品運び出し、商品の梱包、周辺地域の清掃など）
・旅館「寿苑」（備品の移動作業）
・「和倉温泉観光協会・和倉温泉旅館協同組合」（備品運び出し作業）
（5日目）
・「わくたまくんパーク」（園内及びわくたまくんオブジェの清掃作業）
・「少比古那（スクナヒコナ）神社」（草刈りなど）
・旅館「のと楽」（周辺の海岸清掃作業）
・「和倉温泉観光協会・和倉温泉旅館協同組合」（備品運び出し作業）

ボラセン
公式note

立教大学オフィシャルサイト
「CLOSE UP RIKKYO」

学生の声

個人目標を振り返ってみると、 今回の活動を通じて根底から考えが変わったような気がするし、 またそれが大きな収穫になった。 6月に一般ボランティアとして奥能登に入った際は、 いらなくなった家財などを被災した家から搬出した。 その経験から、 災害ボランティアはそうした直接的活動のことだと思っており、 和倉に着く前は今回の活動が果たして災害ボランティアと言えるのか疑問に思っていた。
しかし、 青林寺や多田屋などでの活動を通じて、 災害前からあったニーズが災害によって深刻になり可視化されたこと、 身近な活動にこそ現地のニーズが隠れているということがわかり、 ボランティアの役割というものが自分の中でより鮮明になった。（観光学部 交流文化学科 4年）

今回のプロジェクトに参加する前、 そして1、 2日目の私は受け身だった。 ボラセンが組んでくれたボランティア活動をただこなせればいいと思っていた。 しかしながら、 先輩メンバーの方々は積極的に自分事としてこのプロジェクトに臨んでいることを知り、 皆との多くのミーティングを通して、 このプロジェクトに対して主体的になることができた。 当初はプログラム通りに取り組んでいたが、 自分が目標としているところは何なのかを自分の頭でよくよく考えて、 そこに必要なアクションとして、 現地の人々に防災についてのお話を聞きにいくことができた。
（コミュニティ福祉学部 コミュニティ政策学科 1年）

※学年は当時のもの

第3弾 2025.2.17（月）～20（木）［3泊4日］

テーマ「架け橋になる」

第３弾では、立教チームが目指すかかわり（VISION）の実現に向けて、地域住民同士をつなぐ架け橋になることを意識しながら、オリジナルイベント『わくらDiary』を開催。「和倉で見つけた“あなただけの”宝物」をテーマに、参加者一人ひとりの語りを引き出し、他の住民の方々と共有した。

■主な活動・ボランティア受け入れ先

（1日目）・「曹洞宗 青林寺」（本堂前の雪かき、観音さまの前掛けづくり）
（2日目）・旅館「多田屋」
（不要食器等の整理・値付け、トートバッグ・缶バッジ制作）
・「和倉地域」（オリジナルイベントのポスター配り）
・「和倉温泉 総湯」（震災被害及び復興状況に関するヒアリング）
（3日目）・「和倉温泉 総湯」（オリジナルイベント『わくらDiary』の開催）
（4日目）・「和倉温泉観光協会・和倉温泉旅館協同組合」
（震災被害及び復興状況に関するヒアリング）

学生の声

人と関わることで心の面での支援にもつながるのだと実感した。
和倉の方々と直接話をする中で、 彼らがこの土地をどれほど愛し、どのような未来を思い描いているのかを知ることができた。
それぞれの言葉の中に、 震災を乗り越え、 前に進もうとする強い意志を感じた瞬間でもあった。
（経済学部 会計ファイナンス学科 2年）

※学年は当時のもの

地域・社会で活躍する立教生ボランティア

ボランティアセンターが主催している活動以外にも、学生サークルや地域団体など、様々な団体がボランティア活動を企画・運営しています。
活動分野や活動場所、活動に参加したきっかけなども多様です。
ここでは、学外に飛び出してボランティア活動をしている学生を紹介します！

CASE 1 はじめたきっかけは、ボランティアをしていた友人の勧め

活動先：任意団体「はじまりの場所」

私は任意団体「はじまりの場所」に所属し、練馬区の子どもの居場所づくりの活動をしています。具体的には、小中学生の勉強のお手伝いをしたり、ボードゲームや季節のイベントなどを子どもたちと一緒に楽しんだりしています。
私がボランティアをはじめたきっかけは、ボランティアをしていた友人の勧めでした。
もともと子どもが好きだったことに加え、大学生主体の団体であることに魅力を感じ、「はじまりの場所」に参加することを決めました。当初は、ただ子どもたちと遊びたいという気持ちでしたが、活動を続ける中で、子ども一人ひとりの気持ちに寄り添うことの大切さを学びました。私たちの言動は子どもたちの感情に大きな影響を与えます。だからこそ、常に子どもの視点に立ち、彼らの喜びや成長につながる接し方を考えることが重要だと実感しています。
「はじまりの場所」は、大学生が中心となって活動する温かい団体です。「子どもが好き」「ボランティアに興味がある」という方は、ぜひ一度足を運んでみてください！

経営学部
経営学科 4年
長田 璃季さん

CASE 2 ボランティアを自分事に

所属団体：立教大学Eddy

私が所属しているEddyは、“ボランティアを自分事に”をモットーにしているサークルで、約10年間にわたって活動しています。そんなEddyの魅力は、とにかく活動の幅が広いこと。子ども食堂で子どもたちと触れ合ったり、国内の島で仕事をお手伝いをしたりするほか、海外で家を建てることだってあります。
これらの活動やそこで出会う人々との交流を通して、自分たちに出来ることを模索しています。ボランティアと聞くと、ちょっと堅苦しいイメージをもつ方が多いと思いますし、実際に私自身もそうでした。しかし、楽しむ心を忘れずにボランティア活動を行う中で、一方的に何かをする側にならずに、活動を通して何かを得ようとするEddyのみんなの姿に刺激を受けてきました。
もし、「ボランティアなんて考えたこともないけれど、興味がないわけではない」という方がいたら、Eddyに遊びに来てみてください！

文学部 文学科
（英米文学専修） 3年
奥山 結斗さん

CASE 3 「川越に子どもたちの居場所を残したい」という思いで、団体を設立

活動先：チアアップ彩たま

「チアアップ彩たま」は、埼玉県川越市で学習に困難を抱える子どもたちに向けた居場所づくり・学習支援を行っています。大学生中心のボランティアが、小学４年生から高校３年生までの子どもたちと関わり、上下の関係ではなく「ななめ」の関係を築いています。教育機会を均等にすること、教育格差を是正することを目指して、どんな子どもでも安心して過ごせる場をつくり、無償で活動しています。
設立のきっかけは、大学（学部）時代に関わっていた学習支援教室が突然解散したことでした。「川越に子どもたちの居場所を残したい」という思いのもと、ボランティア仲間と新たな団体を結成。行政・企業・市民社会の協力を得ながら、これまで約２年にわたり活動を継続しています。解決の難しい問題も多くありますが、小さな行動が共感を生み、希望へとつながることを実感しています。
学生時代のボランティア活動は、自分自身の成長にも大きく寄与しました。何か挑戦したい人がいたら、ぜひ一歩を踏み出してほしいと思います。

コミュニティ福祉学研究科
コミュニティ福祉学専攻 博士前期課程 2年
浦松 晶さん

CASE 4 様々な立場の方との語りの場をつくれるように

所属団体：りつろぐ

りつろぐは、新座キャンパスを拠点に、「学術的すぎず、私的すぎない、第三の対話の場」を目指して対話の場づくりを行っている学生団体です。
「社会で起きていることや対人関係のことに“もやもや”しても、大学生活のなかでそれを気軽に話せる場がない（少ない）のではないか」という発想からこの活動を始め、少しずつ対話の場を拓いてきました。
主な活動である「ゆるもやおしゃべり！」という定期イベントでは、『意識高い系って何だろう？』『どうして政治の話ってしづらいの？』『どこから大人？』といった様々な視点からくる“もやもや”について、参加してくれる学生の皆さんと一緒に、「ゆる～く」おしゃべりをしています。
学内の活動が大半ですが、2024年度は立川市社会福祉協議会さんからお声がけいただき、他大学の方々と出張版の「ゆるもやおしゃべり！」も実施しました。
様々な立場の方との語りの場をつくれるように、学外活動を増やすことも視野に入れながら本年度も活動していきます。

コミュニティ福祉学部
コミュニティ政策学科 3年
渡邊 香穂さん

ポール・ラッシュ博士記念奨学金

[ポール・ラッシュ博士記念奨学金とは？]

ポール・ラッシュ博士記念奨学金は、キリスト教の精神にもとづいて、地域、教会、病院などへの奉仕活動を生涯にわたって実践された、元本学名誉教授ポール・ラッシュ博士を記念して設けられました。この奨学金は、キープ協会在米後援会（キープ協会は、地域活動、キリスト教学生活動などの拠点として同博士が設立された機関です）、およびその他の有志によって寄贈された基金とその収益金をもとに支給されています。
ポール・ラッシュ博士の精神や生涯にわたる諸活動を記念し、本学学生に奉仕の精神に基づく諸活動（おもにボランティア活動）を奨励し、援助することを目的としています。
奨学金額は、年額合計70万円以内（給与奨学金）です。詳しい手続は、募集要項を参照してください。

ポール・ラッシュ博士記念奨学金に関する詳細な情報は、
ボランティアセンターのwebサイトに掲載しています。

[主な掲載内容]　直近の募集要項・願書
ポール・ラッシュ博士について
歴代採用計画・受給者について　など

※閲覧には、V-CampusIDの入力が必要です。

[お問い合わせ先]
立教大学ボランティアセンター
池袋キャンパス：5号館1階　Tel. 03-3985-4651
新座キャンパス：7号館2階　Tel. 048-471-6682
E-mail : volunteer@rikkyo.ac.jp

よくある質問

QUESTION 1　これからボランティア活動をしようと思っているという学生も応募できますか？

はい。これから活動される予定の方も対象となります。

QUESTION 2　ボランティア活動の頻度、継続性はどの程度求められますか？　また、どのような内容が、対象と見なされますか？

頻度、継続性については特に定めていません。ボランティア活動は強制されたルールに従って行うものではなく、自発的に自分の意志で行う無償（交通費などの実費支給は除く）での活動で、内容は互恵性、社会性のある活動になります。
企業の営利目的としたものは対象外となり、本奨学金は学生個人（学生団体）が中心となって行う活動を対象としています。

QUESTION 3　日本学生支援機構の奨学金との併給は可能でしょうか？

経済支援を目的としているJASSOの奨学金とは使途目的が異なりますので、併給は可能です。

QUESTION 4　活動計画書はどのようにまとめたらよいでしょうか？

書式は自由です。日程・動機・費用など含め2,000字以上で計画書を作成してください。過去の活動報告書はボランティアセンターで閲覧できますので、ぜひ参考にしてみてください。作成の際には、第三者にとって読みやすい構成としてください。大学教育開発支援センター作成のMaster of Writingを参考にしていただくと良いと思います。

QUESTION 5　推薦書は、どのような方にお願いしたらよいでしょうか？

ゼミの担当教員、アカデミックアドバイザー、学科の教員（学科長、学部長）などにお願いするとよいと思います。活動を知らない先生でも、自ら説明することで推薦状を書いていただくことが可能です。既に活動中の方は学外の関係する団体の担当者でも大丈夫です。文字数の制限はありませんので、書いてくださる方のご判断で結構です。

※注意：推薦者の署名（自筆）・押印（スタンプ印不可）が必要です。外国語の場合は、日本語訳も必要となります。

[2024年度実績]

出願期間：2024年10月2日（水）～22日（火）

受 給 者：大友 りりさん（経済学部 経済学科２年）、他９名
計 画 名：「フィリピン・ロンブロンでの植林及び教育」
支 給 額：250,000円

受 給 者：石川 航さん（異文化コミュニケーション研究科
異文化コミュニケーション専攻 博士後期課程１年）
計 画 名：「クーデターに苦しむタイ・ミャンマー国境の子供たちに教育と食料を」
支 給 額：260,000円

※学年は当時のもの

受給者の声

[地域の一員として受け入れられていることを実感]

私はポール・ラッシュ博士記念奨学金を受給し、フィリピンのロンブロンにて、約２週間にわたるボランティア活動を行いました。活動内容としては、植林活動を通して現地の環境保全に貢献すること、そして小学校や大学を訪れて授業を実施し、子どもたちと交流することです。特に、前年に自分たちで植えた木が成長している様子や楽しそうに授業に参加する子どもたちの姿を目にしたときの喜び、道端で再会した方に笑顔で名前を呼んでもらえた瞬間の温かさが印象的でした。こうした経験は、単なるボランティアではなく、地域の一員として受け入れられていることを実感させてくれるものであり、大きなやりがいにつながりました。
また、滞在中はホームステイを行い、現地の方々と日常を共にすることで、現地の文化や生活習慣をより深く理解することができました。
奨学金を受給したことで、参加のハードルが下がり、この貴重な機会を得ることができました。さらには、安全管理の面でも十分な対策を講じることができ、より充実した活動が可能になりました。

経済学部
経済学科 3年
大友 りりさん

受給者の声

[自分にできることは何か]

タイ・ミャンマー国境の子どもたちに、人道支援や教育支援を届ける活動をしています。学部時代からミャンマーの地域研究を行なってきた私は、軍事クーデターによってお世話になってきたミャンマーの人々が苦しめられている様子を見て、何かできることはないかと考えこの活動を始めました。
2024年度は、4月にメーソートを訪れ、避難民学校の子どもたちなどに、食料や絵本、文房具などを配布しました。また、現地でのフィールドワークで得た繋がりや情報を生かして、帰国後も日本に暮らすミャンマー人の方々と共に、街頭募金や高校での出張授業など、支援活動を続けてきました。
この奨学金をいただいたことで、財政面での活動の幅が広がっただけでなく、ボランティアセンターの方々や立教大学でボランティア活動を行う団体さんとも繋がることができました。立教大学には、ボランティア活動を応援してくれる環境が整っているので、ぜひ皆さんも身近なところから社会活動をスタートさせてみてください。

異文化コミュニケーション研究科
異文化コミュニケーション専攻
博士後期課程 2年
石川 航さん

ボランティアセンターとつながろう

「あなたの当たり前って本当ですか？」

全カリ立教サービスラーニング（RSL）科目を履修して、社会という「フィールド」に飛び出そう!!

キリスト教精神に基づく教育を展開する立教大学では、建学の精神のひとつとして、「共に生きる」という理念を大切にしています。人々に寄り添い、共に活動することを通して、本学の学生が様々な価値観や文化を知り、社会を担う一人の市民としての力を養ってもらいたいと考えています。このことを正課教育科目で学修できるのが立教サービスラーニング（RSL）です。

RSLでは、大学というキャンパスでの学びと社会とのつながりをRSLセンターが提供する「フィールド」を活用することで往還させながら、学生個人の学びをより深めてもらいたいと考えています。

また社会の現場で活動することは、学生個人のなかにある「当たり前」を問い直すことでもあります。社会のなかにある「多様性」を認識し、自分はこれから「どんな場所で」、「どのように生きていくのか」、「どんな現実があるのか」等を問うことは、あなたの将来のテーマをみつけるきっかけになるかもしれません。

立教大学ならではの特色ある科目にぜひ、チャレンジしてみてください！

詳細はガイドを見てね！

「立教サービスラーニング（RSL）センター」と「ボランティアセンター」は、池袋・新座両キャンパスで協力連携し、学生の学びをサポートしています！

2024年度「RSL- ローカル（南魚沼）」

立教大学陸前高田サテライト

本学は東日本大震災の復興支援活動に取り組んできました。 特に震災前から「林業体験」を通じて友好関係を深めていた岩手県陸前高田市を「重点支援地域」に指定し、同市をフィールドとした多様なプログラムを実施しています。2017年には岩手大学と協働で交流活動拠点「陸前高田グローバルキャンパス（サテライト）」を開設し、2025年3月までの8年間、市民の皆さんはもちろん、学生や研究者といった大学関係者、企業や行政関係者など多くの人々が集う空間として活用してきました。

2025年度からは立教大学陸前高田サテライトとして新たに交流活動拠点を開設し、より一層相互の交流を図り、かつ深められる空間を目指しています。また、多くの学生が同市を訪れることができるよう、一定の条件を満たした場合に交通費・宿泊費の一部を援助する制度も用意しています。

頼れる情報源はコチラ

ボランティアセンター webサイト

http://s.rikkyo.ac.jp/volunteer

ボランティア団体の皆様・一般の方向けの情報を掲載しています。

SPIRITボランティアセンター webサイト

https://spirit.rikkyo.ac.jp/volunteer/

立教生に活用していただきたい情報を掲載しています。

Eメールでのお問い合わせ

volunteer@rikkyo.ac.jp

ボランティア活動に関すること、相談の予約等を受け付けています。

ボランティア情報ファイル

ボランティアセンターでは、団体情報、活動内容の資料を提供します。

メールマガジン（月1回、月初に発行）

ボラセンからのお知らせやボランティア募集情報・イベント情報などを配信しています。

●**メルマガ登録申し込みフォーム**

https://forms.gle/FVFFB5wEH77y8qGs9

※立教Gmail（学生番号@rikkyo.ac.jp）にお送りします。
携帯電話、個人アドレスは登録できません。

ボランティアセンター掲示板

池袋キャンパスは5号館1階、新座キャンパスは7号館2階に常設掲示板があります。学内立て看板、学内掲示ポスター、立教時間などもご覧ください。

ボランティアナビ

ボランティア募集情報の閲覧サイト

センターに届くボランティア募集情報を、ネット上でも閲覧することができます。
V-Campus 利用者のみ閲覧可。ログインにV-Campus の ID とパスワードが必要です。

note

立教生のボランティア活動の「今」を知ることができる情報等を随時紹介しています。
ぜひご覧ください！
https://note.com/rikkyo_volunteer/

SNS 情報

X（旧Twitter）アカウント　@rikkyo_volucen
Instagram アカウント　rikkyo_vc

X（旧Twitter）　Instagram　YouTube

ボランティア保険について

ボランティア活動中に本人がケガをしたり、他人に損害を与えた場合に補償する保険です。近くの社会福祉協議会で加入できます（年間350円～、年度ごとに更新）。また国際ボランティアに参加する方は、長期・短期にかかわらず海外旅行保険に必ず加入しましょう。

立教大学 ボランティアセンター

ボランティア活動に関して何でも気軽に相談してください。
ボランティアに関する多彩な情報、活動・交流の機会やスペース、
そして専門的なスタッフによるサポート体制を用意し、
みなさんの想いをカタチにできるよう、共に取り組んでいきます。

池袋キャンパス

〒171-8501 東京都豊島区西池袋 3 -34-1
TEL 03-3985-4651　FAX 03-3985-4657
開室時間　月～金 9:00 ～ 17:00
※開室時間は、池袋・新座両キャンパス共に変更になる場合があります。

池袋・新座共通メールアドレス　volunteer@rikkyo.ac.jp

新座キャンパス

〒352-8558 埼玉県新座市北野1-2-26
TEL 048-471-6682　FAX 048-471-7312
開室時間　月～金 9:00 ～ 17:00

立教大学ボランティアセンター 2025年度 ボランティアガイド

発　行：2025年4月
発行者：立教大学ボランティアセンター
池袋キャンパス
〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1
TEL. 03-3985-4651　FAX. 03-3985-4657
新座キャンパス
〒352-8558 埼玉県新座市北野1-2-26
TEL. 048-471-6682　FAX. 048-471-7312
email：volunteer@rikkyo.ac.jp　web：https://spirit.rikkyo.ac.jp/volunteer/SitePages/index.aspx
印　刷：株式会社太平社